

麻しん・風しん混合ワクチン (MRワクチン)



麻しん・風しんの予防には混合ワクチン(MRワクチン)を1歳時(1期)と小学校就学前1年間(2期)に1度ずつ接種します。

通常はMRワクチンを接種しますが、麻しんワクチン、風しんワクチンをそれぞれ別々に1期と2期の2回接種を受ける

こともできます。くわしくは、かかりつけの医師にご相談ください。

麻しん(はしか)ってどんな病気?

麻しん(はしか)に感染した人の、咳やくしゃみなどで麻しんウイルスが飛び散り、飛沫感染します。

伝染力が極めて強いウイルスで、発熱、咳、鼻汁、目やに、発疹を引き起こします。約10～12日の潜伏期間のあと、38度前後の熱が出て、一時的におさまりますが、再び39～40度の高熱と発疹が出てきます。3～4日高熱が続いたのち下がり、発疹も次第に消えていきます。

主な合併症は、気管支炎、肺炎(100人中1～6人程度)、中耳炎(100人中7～9人程度)、脳炎(約1,000人に1人)、重急性硬化性全脳炎という遅発性の脳炎(約10万人に1人)などがあります。

また、麻しん患者の1,000人に1人程度の割合で亡くなるともいわれています。予防接種をすれば、合併症はほとんど起こりません。ぜひ予防接種を受けましょう。

風しん(三日はしか)ってどんな病気?

風しん(三日はしか)は感染者の、咳やくしゃみなどで飛沫感染します。

感染してから症状が出るまでの潜伏期間は2～3週間あり、軽いカゼの症状から始まり、発熱、発疹、首のリンパ腺が腫れるといった症状が出ます。発疹も熱も2～3日で治ることから『三日はしか』とも呼ばれています。

年少児のうちは心配するほどではありませんが、年長児や大人の場合は重症にな

ることが多く、2～3日では治りにくくなります。

妊婦が妊娠初期にかかると、先天性風疹症候群といって多発奇形の赤ちゃんが生まれることがありますので、妊娠前に免疫をつけておく必要があります。

接種を受ける時期と間隔は? (注)

[1期]麻しん・風しん混合ワクチン

●対象者年齢

生後12～24カ月未満

●回数

1回の皮下注射

[2期]麻しん・風しん混合ワクチン

●対象者年齢

5歳～7歳未満で小学校就学前1年間(就学前年度4/1～3/31)

●回数

1回の皮下注射

麻しん・風しん混合ワクチンの副反応は?

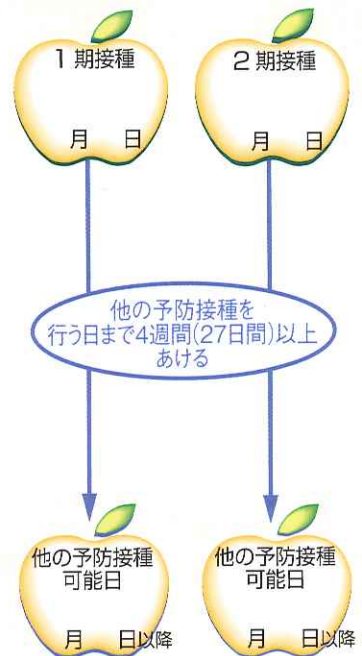
●このワクチンは麻しんと風しんのワクチンを混ぜたものです。接種してから1週間後に37.5度以上の発熱、発疹などがみられることがありますが、通常1～2日で消失します。

●2つのワクチンを混ぜたことで、今までの別々のワクチン接種時以上に増えることはありません。

(注)

麻しん・風しんワクチンを過去に1回しか接種していない人を対象に、2012年の麻しん排除に向けて2008年4月1日から5年間の期限付きで、現在の1期・2期に加え3期(中学1年生相当の年齢)、4期(高校3年生相当の年齢)が追加になっています。1期に麻しん・風しんワクチンを別々に接種した人も、2期にはMRワクチンが接種を受けることができます。麻しん・風しんのどちらかにかかった人も、定期接種できます。単独ワクチンの場合には、それぞれのページを参照してください。

●接種日メモ



接種の詳細については、お住まいの市区町村に、お問い合わせください。